

子どもたちの温かい心にお年寄りが感謝 白石第一小学校の児童が車いすを寄贈

3月4日、白石第一小学校の児童5名が福岡蔵本の特別養護老人ホーム「えんじゅ」にアルミ製の車いす2台を寄贈しました。第一小学校では4年ほど前から、7月と9月に全校児童と保護者がアルミ缶や段ボールを回収し、その売上金で購入した車いすなどを福祉施設や福祉団体に寄贈しており、えんじゅへの寄贈は2回目です。えんじゅを訪れた同小ボランティア委員会の斎藤千愛さんは、「いつまでも元気でいてください」とあいさつ。お年寄りからは「本当にありがとう。大事に使わせていただきます」という感謝の言葉が伝えられました。



▲車いすを寄付する子どもたち

仙南2市7町の若者が中央公民館に集結 仙南青年文化祭in白石



▲わんこうーめんに挑む子どもたち

2月24日、中央公民館で「仙南青年文化祭in白石」が開催されました。この催しは、サークル活動など、日ごろからさまざまな活動に取り組んでいる仙南地区の若者の発表の場として、各市町の持ち回りで年に1回開催されているものです。館内では書道作品や編み物、写真などの力作が展示されたほか、13団体による日舞やエアロビクス、ステージパフォーマンスなども披露されました。また、地元特産のうーめんを使った「わんこうーめん大会」も行われ、挑戦した子どもたちは口いっぱいいうーめんをほおぼっていました。

宮城県沖地震に備えてまた一つ、安全・安心を確保！ 災害時の要援護者の受け入れなどの協力に関する協定を締結

3月6日、総合福祉センターで「災害時における要援護者の受け入れ等の協力に関する協定書」の調印式が開催されました。この協定は、地震や風水害などの災害が発生または発生する恐れのある場合、体育館などの避難所では十分な対応が難しい、寝たきりの高齢者や重度の障害者などを受け入れていただくためのものです。調印式には、風間市長と白石市福祉施設連絡協議会に加盟する7法人、1組合の代表者が出席して協定書に調印、お互いに協力することを確認しました。受け入れが可能となるのは、市内10カ所の施設で、また一つ、安全と安心が確保されました。



▲調印後、全員で協力を誓いました

これからもぜひご利用ください 薬師の湯ひまわりセンターの宿泊者が1万人を突破



▲遠藤さん（写真左）と佐藤理事長

2月21日、薬師の湯ひまわりセンターの宿泊者が1万人を突破し、記念セレモニーが行われました。1万人目の宿泊者となったのは、福岡長袋在住の遠藤ミヨさん。遠藤さんは、老人クラブの皆さんと一緒に楽しいひとときを過ごそうと、薬師の湯を訪れたとのこと。遠藤さんには、記念品として薬師の湯から認定証とペア宿泊券、うーめんが贈られました。昨年4月のオープンから、1年を待たずしての1万人達成。薬師の湯の佐藤孝一理事長は、「これからもサービス向上に努めていきますので、ぜひご利用ください。」と話していました。

生涯学習に取り組む市民の祭典 第27回公民館まつりを開催！



▲展示の部（白石婦人会の皆さんのレザークラフト）

3月7日から9日までの3日間、中央公民館において第27回目となる公民館まつりが開催されました。7日に行われた開会式には、市民や関係者など約100名が出席。吉野照子公民館まつり実行委員長のあいさつ後、来賓の風間市長や佐藤市議会議長なども加わってテープカットが行われ、3日間の生涯学習に取り組む市民の祭典がスタートしました。展示の部には、31団体390人、芸能の部には21団体285人の皆さんが参加したほか、8日には芸能リポーターの梨元勝さんを迎え、文化講演会が開催されるなど、公民館は多くの皆さんでにぎわいました。

みんなで仲良く読んでね！ 越河小学校の児童が越河保育園に絵本をプレゼント

2月29日、越河保育園を越河小学校の5・6年生18人が訪れ、大型絵本4冊をプレゼントしました。この絵本は、越河小学校の児童たちが作った干し柿2,000個と米120kgを地域の皆さんに販売した収益金で購入したもので、1冊約1万円。贈呈後は、3クラス35人の園児たちに、児童6人が一つのグループとなって読み聞かせを行いました。中には、登場人物ごとに声やしゃべり方を変えたり効果音を加えたりと、園児たちが飽きないように工夫して読み聞かせを行うグループもありました。児童たちは、11月から3回保育園を訪れ、保育士の読み聞かせを見学するなどして練習を重ねてきました。



▲大型絵本をプレゼントする越河小学校の児童たち

伝統の技を引き継ごう 深谷小学校で「かさまつ太鼓」の引き継ぎ式



▲熱のこもった演奏を披露する子どもたち

2月23日、深谷小学校で「かさまつ太鼓」の引き継ぎ式が行われました。同小学校では10年ほど前から、児童全員の取り組みとして太鼓演奏を行っています。勇壮な演奏は地区でも評判で、校内や市の行事など、数々の舞台上で演奏を披露してきました。児童の保護者などが見守る中、3月末で小学校を卒業する6年生13人が、「最後にふさわしい演奏を」と息の合った演奏を披露。下級生も、先輩たちから引き継がれてきた大切な財産を守ろうという決意を込め、力いっぱい太鼓をたたいていました。

一流のオーケストラ演奏に大興奮 大鷹沢小学校で仙台フィルハーモニーのコンサート

2月19日、大鷹沢小学校で仙台フィルハーモニー管弦楽団のコンサートが行われました。このコンサートは、子どもたちに優れた芸術に触れてもらい、芸術を愛する豊かな心を培おうという、文化庁の「本物の舞台芸術体験事業」の一環として行われたものです。この日は大鷹沢小学校の児童とその保護者のほか、白川小学校の5・6年生など、合わせて230人が参加。次々と名曲が披露されたほか、指揮の体験も行われ、子どもたちは楽しく音楽の素晴らしさを体験していました。



▲指揮の体験も行われました